

教務だより

2014年1月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

一番伸びる時期が今この「一月」

茗溪塾塾長 宇野 雅春

年が明けました。いよいよ受験本番になります。中学受験はすでに埼玉県ではじまっており、二十日から千葉県、そして二月一日からの東京都・神奈川県へと続いていきます。高校入試も一月の千葉私立前期試験から始まり、公立高校合格発表まで約一か月半熱い戦いが続きます。大学入試はいよいよセンター試験。私立大学から国公立大学へと受験が数週間にわたって続きます。それぞれの夢と希望をかけて受験が繰り返されることとなります。受験というのはあとで振り返ってみると、あのときもっとこうすればよかったとか、考え方が今一つ甘かったとか、反省が出てくるものです。どうしても自分の弱い面が出てしまうのは、受験自体が自分に大きな「飛躍」を迫るものだからかもしれません。

長く受験というものに関わってきて思うことは、そういう厳しい体験は若いときにしっかりしておく必要があるのではないかということ。社会や大人への登竜門として、もしかしたら絶対に必要なのではないかということです。悩むことも大切なことですし、そうした経験をしないまま、社会の荒波にもまれても、結局はやっていけないのではないかと思うのです。楽々進学していくというのでは、何か手順が欠けているように思ってしまう。

そもそも「受験」のたいへんさは、社会に出てからの仕事の大変さに比較すればまだまだ及ばないことのはずです。学校を出て仕事に就いたあとも、若いうちに仕事のがんばりどころを経験しないままいくと、結局、会社にとって必要のない存在になってしまったり、「子育て」という二十四時間労働にも耐えられなくなってしまいます。「若いときの苦労は買ってでもしろ」という格言を思い出します。

経験と訓練を積むことで、将来社会に出てからの強い土台ができると思うのです。今、たぶん受験生が一番苦しい時期にさしかかっていると思います。気持ちが安定し、学習に喜びが出てきている人は、あまり心配することはないかもしれません。しかし、苦しいと感じていたり、不安に感じている人は軌道に乗り切れていないことで、さらに自分にハンディを課している可能性があります。心が定まらないままあれこれ悩んでいては、自分で失敗を引き込んでくる結果になりかねません。

どうして、そうなるのか？たぶん、やることをやりきれていないことが逆に不安や苦痛になってしまうからではないでしょうか。

この時期からは受験勉強をすべてに優先させ、やれることを次々とこなしていくことが重要です。入試が近づくことで、気持ちも煮詰まっています。押し迫っているとはいえ、実は、この時期が一番成績が伸びる時期なのです。今まで順調だと思っていた人ものんびりしてしまうと、一気に追い越されてしまうこともあるのです。ですから、今までのことで悩むより、これから受験までを精一杯学習をやり抜き、潔い気持ちで受験本番に向かうことが大切なのです。ここから、受験は心の勝負になります。心が弱ければ、思わぬところで悔いを残すこととなります。強い心を持ち、一日一日をあせらず精一杯のことをやり抜きましょう。すべてが順調にいくとは限りません。最後の最後までがんばり抜いてみないと結果はわかりません。すべて終わるまで途中で投げ出したりせずにごんぱり抜きましょう。

無心にごんぱることが、自己最高をつくる大きな力になります。今までやってきたことを信じ、先生を信じ、友だちを信じ、そして、そのすべての中心にいる自分を信じて、この大きな山を登り切ってほしいと思います。

(塾長著書「合格への道しるべ」より)